

萬来舎写真展岡山展実行委員会

事務局所在地：岡山市万成東町6-18 代表者氏名：浮田 隆 司
電話番号：086-252-0629

調査研究の目的

建築家谷口吉郎と彫刻家イサム・ノグチの、コラボレーションによる日本で初めての建築「新萬来舎」（慶應義塾大学：1951年建設）は、多くの保存を望む声が聞こえる中、2003年に惜しまれつつも解体された。両氏の生誕百年を迎え、「新萬来舎」の希有な空間の魅力をより多くの人に伝えることにより、現在、各地の文化財や建築が直面している「保存、修復」問題に対して認識を高め、検討を促すことを目的とした。また、二人の岡山とのかかわりを検証し、岡山県吉備中央町出身の造園家「重森三玲」との交流を紹介。日本の造園史上重要な位置を占める重森作品の見学会などを行い、モダニズムを追求した昭和の偉人達の足跡を通じて、文化と社会の確かな関係性を提示した。

調査研究の経過

「新萬来舎」解体問題が持ちあがって以来、慶応大学の教授を中心とした多くの文化人が、文化財の保存問題をクローズアップし、数々のシンポジウムが開催されて来た。その中心事業としての「萬来舎写真展：美の鼓動、永遠に」が、北海道の美唄を皮切りに、金沢、高松、京都、酒田、東京と巡回展示された。各会場では、建設当時の関係者や建築家谷口吉郎と彫刻家イサム・ノグチを知る人々を迎えての講演会が開かれ、多くの人々の関心を集めた。岡山展は天神山文化プラザに於いて開催され、50点を超える写真パネルや萬来舎の模型、イサム・ノグチの照明器具などが展示された。「伝統とモダニズムの融合」と題したシンポジウムには6人のパネラーを迎えて、岡山における谷口吉郎、イサム・ノグチ、重森三玲の思い出話を交え、今直面する老朽化した文化財の保存問題についての議論が交わされた。会期中には、吉備中央町に現存する、重森三玲作の庭を見学するバスツアーを企画。多くの参加者が知られざる岡山の偉人の足跡に感嘆した。



写真展示会場



写真パネル説明会

調査研究の成果

展覧会においては、多くのマスコミ報道もあり、1100人を超える入場者が来場し、大きな反響を呼んだ。半世紀前の建造だが美的な完成度の高い建築の様相がパネルで紹介されると、反面、その保存の困難さが明確な課題として示された。谷口吉郎の知られざる作品やイサム・ノグチが岡山で制作する姿が紹介され、1950年代の岡山における文化人の盛んな交流が新たに認識された。また、重森作庭見学ツアーでは、今まで顧みられることの少なかった、地元出身の造園家の先見性のある空間演出を鑑賞し、驚きと感嘆を呼んだ。シンポジウムにおいては、新萬来舎建築にかかわった建築家由良滋氏の建築現場での興味深い話や、重森千青氏(重森三玲孫)や杉山真紀子氏(谷口吉郎次女)、金重晃介氏(金重陶陽三男)による肉親としての話題、また岡山に於いてイサム・ノグチと深くかかわったパネラー諸氏のエピソードなどが、250人を超えるシンポジウム参加者の興味を呼んだ。イサム・ノグチの備前：金重窯での作陶の様子を伝える写真や万成山における石の作品制作のフィルムは、他では見

られない活動の様子を伝える貴重な資料として、特に参加者の目を釘付けにした。文化財保存を訴えたこの展覧会の開催は、文化と社会の本来的なかかわり合いを具体的に視覚化し、文化が民衆の生活に及ぼす密接な役割を示したように感じられる。その再考は多くの人の共感を得られたと確信している。

「新萬来舎」を紹介
岡山で、パネルや模型50点
写真展開催

昭和を代表する建築家 谷口吉郎(一九〇四〜一九九一)と世界的彫刻家 イサム・ノグチ(一九〇一〜一九八八)によって設計された萬来舎(一九五一年)が、今年から同展覧会を開催する。このため、関係者が岡山とこんなにもかかわりが深かったことを改めて知りました。一話した。二十八年午後一時、谷口ら交流のあった関係者が会場で講演を行った。その後、四時からシンポジウムを開催し、無料(金庫券)。

三原隆上座に、部族築
このため、関係者が岡山とこんなにもかかわりが深かったことを改めて知りました。一話した。二十八年午後一時、谷口ら交流のあった関係者が会場で講演を行った。その後、四時からシンポジウムを開催し、無料(金庫券)。

三原隆上座に、部族築
このため、関係者が岡山とこんなにもかかわりが深かったことを改めて知りました。一話した。二十八年午後一時、谷口ら交流のあった関係者が会場で講演を行った。その後、四時からシンポジウムを開催し、無料(金庫券)。

三原隆上座に、部族築
このため、関係者が岡山とこんなにもかかわりが深かったことを改めて知りました。一話した。二十八年午後一時、谷口ら交流のあった関係者が会場で講演を行った。その後、四時からシンポジウムを開催し、無料(金庫券)。

平成18年1月25日 山陽新聞より

今後の課題と問題点

文化財保護に関する各種の問題が浮かびあがった当展覧会では、多くの課題が考えられる。一つには経済活動と相反する方向性にある文化財の「保護、修復」をどのような社会的同意の上で成立させるか、またその認識を広めるための取り組みはどうあるべきか。オリジナルの重要性と時代のニーズを折り合いづける方法は？また、資産としての文化史を整理検証する必要性もクローズアップされたのではないかと考える。「地方性」がクローズアップされる現代、文化財としての「岡山」を確立する大きな要素として、岡山に深く関わりを持った巨匠たちの足跡を確実に記録する必要性を感じる。

●執筆：浮田隆司